
半月の沈黙

西本真由美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

半月の沈黙

【Nコード】

N9681G

【作者名】

西本真由美

【あらすじ】

「あなたの一番になれなくていいの」私は呟いた。半月がほの白い光を放つ、静かな夕暮れのことだった。

「一番になれなくていいの」

私は静かに呟いて、テール越しに座っている彼の顔を見た。夕暮れの空では半月が弱々しい光を放つだけで、灯りをつけそびれた部屋は薄暗かった。読書をしていた彼の顔には影がさして、私は彼の表情を窺い知ることができなかった。いつもの私なら、見えないう彼の表情を恐れて、それきり何も言わなくなっていたに違いないけれど、その日の夕暮れは私の心を変な風に高ぶらせていた。私はもう一度唇を開いた。

「私、あなたの一番になれなくていいの」

彼は見知らぬ言葉で書かれた分厚い本から目を離した。視線が彼の瞳とぶつかって、私は思わず口をつぐんだ。半月が放つ薄明るい光の下で、いつも涼しげな彼の瞳は、淡い困惑の色を湛えているように見えた。私に向けられた彼の視線と二人の間に流れる沈黙に、私はなんだかいたたまれなくなつて、曖昧な笑みを浮かべながら空になった二つのコーヒーカップをシンクに運んだ。蛇口から流れる水の音は無音の空間に滑り込み、沈黙の色をさらに濃くした。しかしそれは決して私が嫌いなものではなく、むしろ私の肌に合ったものだった。一人暮らし用の六畳の部屋は、もともと沈黙を集めるようにできているのかもしれない、と私は思った。二人いる今夜も一人きりの夜も、この部屋は同じようにひっそりとしていた。ともすれば今夜の方がいつもよりも静かかもしれない。水に濡れて薄まってゆくコーヒーカップの茶色いシミを見つめながら、私はゆっくりと息をついた。

彼は本の背表紙をいじりながら、思案しているようだった。彼は、リビングに戻ってきた私に静かな瞳を向けた。

「電気、つけないの？」

彼の言葉に私は首を横に振った。

「このままがいいわ」

いよいよ深まつてきた闇に眼を泳がせて、私は言った。居心地のよい夜の静けさを、私は壊したくなかった。

「そう」

彼は呟いて向かい側に座った私を見つめた。窓から差し込むぼんやりとした月明かりに照らされて、彼の二つの瞳が静かに光っていた。私はその瞳の輝きに吸い寄せられるようにして、彼の向かい側の椅子に座った。二人は暗がりの中、何も言わずに見つめあった。まるで時が停止したように、部屋の空気は微動だにしなかった。

幸せな沈黙を先に破ったのは彼のほうだった。

「つまり君は」

と、彼は言った。

「僕とは別れないと言っただね」

私は「ええ」と言つて頷いた。

「けれど、あなたが他の人のことを好きになるのを止めはしないわ。心が移ろふことは人にとって当然のことだもの」

そう言つて私は窓の外に目を向け、かすかに溜息をもらした。

「新しい恋人と過ごす日々の中で、あなたが一瞬でも私のことを思つてくれたならそれでいいの。すれ違う時に声をかけてくれなくても、すれ違った後に熱を感じてくれればいいの。そうしてほんのたまに……」

「それはできない」

彼は低い声で言った。

「それでは君が苦しむだろう?」

「……さあ?」

私は答えをはぐらかしてくすくすと笑った。夜の闇が私を大胆にしていた。彼は戸惑つたような表情を私に向けた。それが愛おしくて、私は思わず彼の手を取った。ひやりと冷たいその手に、私は自分の頬を寄せた。体中の熱が、冷たい彼の手に吸い込まれてゆくようだった。私は微笑を浮かべて彼を見上げ、

「もしかしたら苦しみたいのかも……」

と、呟いた。そうして月明かりに白く浮かび上がる彼の冷たい手に、私は静かに唇を寄せた。彼の手は震えていた。

「ごめん」

かすれた声が静かな部屋に響いた。

「ごめん。けれど僕はもう君を愛してはいない」

優しい夜の沈黙が、音をたてて崩れていった。窓の外では半月が白く儚く輝いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9681g/>

半月の沈黙

2011年4月7日17時41分発行